

技術科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
技術の見方・考え方を働きかせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、知識、技能を習得し、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を育成する。	日本の強みは、個人の技量の高さ、創意工夫して改善をすること、自分の仕事に責任をもつことであり、ものづくりを通して達成感や責任感、深く考え表現していく力を育てる。

生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手立て	手立ての実施時期	成果検証(2月)
第1学年 ・生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定することに課題が見られる。 ア ・作業が好きな生徒は多いが、作成計画など見通しをもって、粘り強く取り組み表現していくことに課題が見られる。イ	・安全面を考慮し、授業規律を徹底する。 ・身近な生活環境や社会に役立つ良い作品を見返し、を行う。 ・計画を踏まえ最後までアドバイスを行いながら製作させ、責任感を育てる。	通年	
第2学年 ・全体として、知識及び技能の習得に向け、主体的に学習に取り組む姿勢に課題が見られる。ア ・作業が好きな生徒は多いが、じっくり考えたりすることについて課題が見られる。イ	・学習の目標を意識させ、作品と向き合う場面を設定し、主体的に改善点を見いだす力を養う。 ・自ら考えて、より良いものをつくろうとする姿勢を育てる。 ・最後まで製作させ、責任感を育てる。	通年	
第3学年 ・技術の見方・考え方を働きかせ、他者と協働しながら知識・技能を活用して課題を解決することに課題が見られる。ア ・作業が好きな生徒は多いが、じっくり考えたりすることについて課題が見られる。イ	・生活や社会の問題を見いだして課題を設定させ、他者と協働する活動を充実させながら見通しをもって課題解決する力を育む。 ・自ら考えて、よりよいものをつくろうとする姿勢を育てる。 ・最後まで製作させ、責任感を育てる。	通年	

■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体化的な充実に向けた一人一台端末等ICTの効果的な活用について 第1学年は生物育成およびエネルギー変換について、第2学年は材料と加工について、第3学年はプログラミングに関して、班毎にテーマを決め端末を使用して発表する。【重点:協働】	■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について 作品を作る際に設計図を端末にあげたり、学期末までの授業内容を板書したりするなどして見通しをもたせる。また毎時間、授業で発見したことを振り返りシートに記入させて、次の授業が始まった時に生かすようにする。
--	---